❺森ヶ岡の虫の音

「淡しまの　森の梢に　鳴蝉の
眠りを覚ます　明の聲かな」

「森ヶ岡」は頓行の小高い丘の上にある粟島神社あたりである。

粟島神社は少彦名命を祀っている。少彦名命は医薬の神であり、特に婦人病に霊験があるとされる。

各地の粟島神社には、小さな石鳥居が設置してあり、その鳥居を這って通ることによって、婦人病を避けられるとされる。

「森ヶ岡」は現在も、楠や榎の大木が生い茂っているが、明治の頃も木々に覆われて、多くの蝉が集まる格好の場所だったのであろう。

粟島神社の社叢（しゃそう）

❻弁天の浮御堂

「浪風も　なくて静の　浮御堂
遙かにおがむ　弁才天さん」

「弁天の浮御堂」とは、弁才天に鎮座している当社の飛び地境内神社である厳島神社のことである。

厳島神社は安芸の厳島神社が宮島という島に祀られているように、神池の中の島に祀られる場合が多い。

厳島神社には境内の周囲が未だ海であった頃に、波で洗われた巨岩群が神社を取り巻くように残っている。

その巨岩群の上に、神社が浮かび上がるように見えるので「浮御堂」と詠まれたのであろう。

巨岩に囲まれた厳島神社

❼瘡守の秋の月

「明らかに　詠めつくした　瘡守の
一首を残す　秋の夜の月」

瘡守大権現は市場の丘の上に祀られている。

昭和十二年五月に開闢三百年祭を執行していることから、創建は寛永十四年（1637）である。

瘡守は瘡病除けの神として信仰され、参詣者も多かった。瘡病とは、『できもの』や「はれもの」の病ということであるが、瘡守は主に天然痘の感染防止の為に疱瘡神として祀られる。

この場所は、南に前潟の家並みが開けていることから、人々が集まり、秋の月を眺めたのであろう。

瘡守神社から前潟の町並みを望む

❽多聞の晩鐘

「撞出す　鐘の音色も　願福寺
はやしま方に　ひびく入相」

「願福寺」は塩津の多聞山に真言宗古義派仁和寺の末寺として建立されている安養院のことで、明治の頃は「願福寺」と呼ばれていた。

安養院の山門は、欅造りの鐘楼を配した楼門となっており、この鐘楼に鐘が吊してあったが、戦時中の金属供出で召し上げられた。鐘は戦後再び吊された。

明治の頃は夕暮れに安養院で撞かれた鐘の音が早島の町に哀愁を帯びた音色で聞こえたことであろう。

入相とは夕暮れの事である。

安養院の楼門